

### 一宮市立豊島図書館



● 虫めずる姫の冒険  
● 芝田勝茂／作  
● 小松良佳／絵  
● あかね書房

京都がまだ平安京とよばれたころのお話です。葵祭りの行列を、突然おそったハチの大群。それを救ったのは、なんと、かわりもののお姫さま。大納言のむすめで、本当なら十二単衣（ひとえ）を着ているはずなのに、虫が大好きなので「虫めずる姫」。なぞの金色の虫を追ってぼう険の旅へ！ 京の都であればよいとするだけでもの虫を、止めることができるのか。平安時代の心優しく、ちよつとオテンバな女の子のスペクタクル平安ファンタジーです。

### 愛知県図書館



● バドの扉がひらくとき  
● クリストファー・ポール・カーティス／作  
● 前沢明枝／訳  
● 徳間書店

十さいの黒人少年バドは、父親のことを何も知らされないまま、六さいのときに母親をなくしました。いじわるな里親にがまんがでせずに逃げ出しますが、行くところもなく、だれかもわからない父親をさがそうと決意します。母親が大事にしていたジャズバンドのチラシを手がかりに町を出たバドは……。  
なんて悲しい話だろうと思うでしょうが、バドはそんな境遇を少しも感じさせないほど明るく元気。彼を助けてくれる大人たちもすてきです。

### 瀬戸市立図書館



● わたし いややねん  
● 吉村敬子／作  
● 松下香住／絵  
● 借成社

一行の言葉と一台の車いす。わたしたちはがんばらなければならんだらうか？ こく服しなければいけないんだらうか？ 「そやけど、なんでわたしが、強ならなあかんねんやろーか」「障害は不便であって不幸ではない」って、だれか言ってたっけ。すべての人が、なんでもなく、普通に、快適なくらしができるようになってほしい。あたりまえに、ありのままに。

### 稲沢市立中央図書館



● 地下室からのふしぎな旅  
● 柏葉幸子／作  
● 杉田比呂美／絵  
● 講談社

アカネはぼんやりしているとかわれる。今日も気がついたらおつかいを頼まれていた。お父さんのいちばん下の妹チイおばさんのところへ。少し変わったチイおばさんが住んでいるお店は「ちゅうとはんば屋」。お手に伝いさせられていると悲鳴が。地下室に黒いマントを着た男がいる！ なぜかびしょぬれで。アカネとチイおばさんはその男に抱えられ地下室の壁に向かつて突っ込んで行く。向こう側にある不思議な世界へと。

小牧市立図書館

- トムは真夜中の庭で
- フィリパ・ピアス／作
- 高杉一郎／訳
- スーザン・アインツィヒ／絵
- 岩波書店



トムは、弟がはしかにかかりおじさんの家にあずけられます。その家の階下には、家主のバーソロミュー夫人が大事にしている大時計がありました。ある真夜中、大時計が十三の時を打ちます。ホールに下りて行ったトムが裏口を開けると、裏庭が美しい庭園に変わっていました。そこでトムは、古めかしい服を着た少女ハティと出会います。作品の中で時間をうまくつかい、最後には思いがけない結末が見事に描かれています。

春日井市図書館

- アンジュール
- ーある犬の物語ー
- ガブリエル・バンサン
- BL出版



ペットを飼っている人も、このごろ多いね。君の家の犬はどんな名前？ 大切にしていますか？  
この本の名「アンジュール」は犬の名前。アンジュールは、ある日、車の窓から投げすてられてしまう。そこから犬の長いさすらいが始まる。車を求めて走り、あきらめ歩き、たたくみほえ、やがてほっと心があたたまる。文字が一つもないこの絵本は、素晴らしいデッサンの絵の力もあり、かえって読む者の想像力をかきたて、心にひびいてきます。

豊明市立図書館

- かおるのたからもの
- 征矢清／作
- 大社玲子／作
- あかね書房



かおるは、杉田君がとても大切にしていた一冊の本を貸してもらいました。ところが、弟のたけしが落書きをしてしまいました。お父さんに同じ本を買ってきてもらったのですが、杉田君は「その本は、ぼくのはちがうんだよ」と言います。かおるは杉田君の悲しさが分かりませんでした。杉田君にとっての宝物は、お金では決して買えるものではなかったのです。かおるは、自分の宝物について考えます。お金では決して買えないもの大切さと思いやりの心について考えさせてくれる本です。

尾張旭市立図書館

- 耳の聞こえない子がわたります
- マーリー・マトリン／作
- 日当陽子／訳
- 矢島眞澄／絵
- フレーベル館



ミーガンは耳の聞こえない元気な女の子で、引越してきたシンデイはとても内気な女の子。二人は、手話をしながら仲良くなりベストフレンドになっていく。お互いの短所を補いながら、時にはケンカもし、成長していく姿が描かれている。長所だけではなく短所も知るところで本当の友達関係を築いている。誰もが一人で生きていくわけではなく、周囲の助けも必要だということを伝えている作品となっています。

清須市民センター



- ハンサム・ガール
- 佐藤多佳子／作
- 伊藤重夫／絵
- 理論社

主人公、二葉は、少年野球チームに所属するただ一人の元気な女の子。パパは元プロ野球選手で、今は保育士を目指す専業主夫。ママはバリバリのキャリアアウーマンで、今は単身ふ任中。姉の晶子はボーイフレンドに夢中という少し変わった家族と暮らしています。そんな家族に問題発生！二葉は、母が言った「ハンサム・ガール、女にしても男にしても通用する、男でも女でも素敵な、み力のある人間になって！」という言葉思い出し成長していきます。

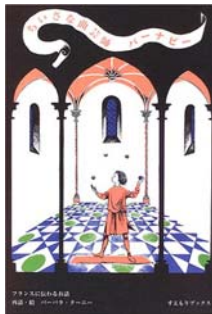
日進市立図書館



- だれも知らない小さな国
- (新版)
- 佐藤さとる／作
- 村上勉／絵
- 講談社

小学校三年生の時でした。モチノ木を探しにいったぼくは、こんもりとした小山や杉林に囲まれた三角形の平地を見つけました。それは、ぼくの大切な秘密の場所となりました。ある夏の日、ぼくはどうとう見た。小川を流れていく赤い運動ぐつの中で、小指ほどしかない小さな人たちが、ぼくに向かってかわいいう手を振っているのを。それがコロボツクルとの初めての出会いでした。

北名古屋東図書館



- ちいさな曲芸師バーナビー
- バーバラ・クーニー／作
- 末盛千枝子／訳
- すえもりブックス

バーナビーという少年が、旅から旅へと曲芸をして歩くお話です。少年には、父も母もいません。お母さんは、彼が赤ちゃんの時に亡くなり、一緒に曲芸をしてまわっていたお父さんも死んでしまったために、独りで曲芸をして旅しているのです。雨が降ってきたある日、一人の修道士に助けられて修道院で暮らすことになりました。何のために生きているのか分からなくなっていたバーナビーは、ある日自分のやることを見つけます。そして奇跡が起こります。素敵なさし絵と共に楽しみましょう。

清須市春日公民館図書室



- ぼくのお姉さん
- 丘修三／作
- かみやしん／絵
- 偕成社

ぼくのお姉ちゃんは、十七さい。ダウンしようという障がい者だ。友だちはお姉ちゃんのことでぼくをからかう。ある日、作文の宿題で兄弟のことを書くことになった。ちっとも進まなかった。でも、その日、お姉ちゃんが働いている作業所の給料日で、ぼくたちにごちそうしてくれるという。そのことがきっかけで、ぼくの中のお姉ちゃんに対する気持ちが変わっていった。この本を読んで、障がい者やその家族の気持ちを理解することができます。

長久手町中央図書館



- クローディアの秘密
- E・L・カニグズバーグ／作
- 松永ふみ子／訳
- 岩波書店

クローディアは毎日の生活が嫌になり、ある日、家出をすることに。弟を道連れにして向かった場所は美術館。物語はここから、あの有名な芸術家ミケランジェロの秘密にせまります。かん視員の目をくぐりぬけ、こっそりと展示品の中で過ごす日々はスリル満点。ニューヨークのメトロポリタン美術館をぶ台にした物語です。

東郷町立図書館



- しらんぷり
- 梅田俊作・佳子／作・絵
- ポプラ社

クラスメイトがいじめにあっている。でもぼくは知らんぷり。口に出したら、今度は、こっちがやばいからだ。知らんぷりを続けるぼくたち……。テーマはいじめ問題ですが、いじめっ子でもなく、いじめられっ子でもなく、知らんぷりをする少年が主人公の本です。いじめをする子は悪いけど、それを知らんぷりする子も悪い。知らんぷりをする主人公の揺れる心を描いた本です。

犬山市立図書館



- ブンダバーとモモ
- くぼしまりお／作
- 佐竹美保／絵
- ポプラ社

見た目だけは普通の黒ネコのブンダバー。実は人間の言葉が話せるんです（ネコ語もイヌ語も話せます。）そんなブンダバーの活やくする「ブンダバー全十巻」に続く新シリーズ。女優を目指すモモはブンダバーが大好き。大の仲良しブンダバーとモモだけど、なんとモモに好きな男の子ができちゃった。どうするブンダバー。おたがいを大事に思う気持ちがあがいて描かれています。だれかを好きになりたくなる本です。

豊山町社会教育センター  
図書室



- ピーター★パンとスカーレット
- ジェラルディン・マコックラン／作
- こだまともこ／訳
- 小学館

第一次世界大戦のつめあとがまだ色こく残る一九二〇年代。ロンドンのあるこちで、夢にうなされる「もと男の子」たちがいました。目が覚めるたびに、海ぞくが使う短けんや、弓やシルクハットがベッドの中にあられます。人魚の夢を見た次の日は、魚のにおいが一日じゅうただよう始末。今は医者や判事になった「大人」だけれど、「もと男の子」たちは、ネヴァアランドを目指していきま。そしておそれていたとおりがれらが見たネヴァアランドは、かつてとはすっかり姿を変えていました。そしてピーター・パンも……。

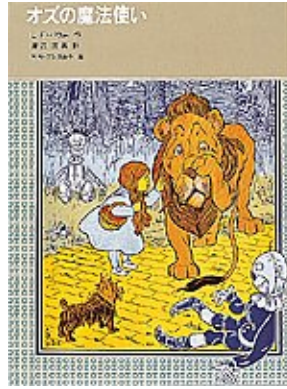


岩倉市図書館

- 12歳に乾杯！
- 吉田道子／作
- 佐竹美保／絵
- 国土社

朝子の父は、染色を志し、母はカウンセラーになる夢を持ちます。両親にはそれぞれ夢があります。でも両親は自分たちそれぞれの夢をかなえるためには、いっしょに暮らすことができないと…。友達も夢を持って生きています。病気で二年遅れの友人の島君は木の実の美術館を開く夢があり、両親がりこんを以て母と妹と三人暮らしのゆうすけはそれを支えたいといっています。いったい夢とは？ 現実とは？ 朝子の心は…。夢と現実の中でゆるる少女の心をえがいた物語です。

江南市立図書館



- オズの魔法使い
- L・F・バウム／作
- ウィリアム・W・デンスロウ／画
- 渡辺茂男／訳
- 福音館書店

知恵や勇気、優しい心って、私たちの体のどこにあるのだろうか？ アメリカ人によって書かれた初の本格的ファンタジー『オズの魔法使い』は、お話の中でそんな問いを投げかけてきます。カンザスに住む少女ドロシー、その飼い犬トト、脳みそを欲しがるカカシに、心臓を欲しがるブリキのきこり、そして、勇気が欲しいおくるなライオン。彼らの冒険の中にその答えがあるのかもしれませんが。

扶桑町図書館

- ルリユールおじさん
- いせひでこ／作・絵
- 理論社



少女ソフィーは、大切にしていた植物の図かんがばらばらになってしまい途方にくれてしまいます。街の人から本を直してくれるルリユールおじさんのことを教えてもらい、その店にたどり着くことができました。おじさんの手により、図かんが世界で一つだけの美しい本としてよみ返ったのです。フランスのパリの路地裏をぶたに精密でとう明感のある美しい絵は、大人でもじゆうぶんに楽しむことができます。本を大切にすることが人と人への優しさにあふれた絵本です。

大口町立図書館

- 幸子の庭
- 本多明
- 小峰書店



幸子は学校に行けなくなってしまった小学六年生。家には、ひいおじいちゃんの家造った大きな庭があります。その庭を見るために、九州からひいおばあちゃんが、人生最後の旅をしてやって来ることになりました。あと四日しかないのに、庭は今、荒れ放題でまるでおばけ屋敷…。本物の庭師の手で生まれ変わっていく庭に合わせるように、生き生きと元気になっていく幸子。さわやかな風が心を吹き抜けるような、すがすがしい気持ちになる本です。

愛西市中央図書館

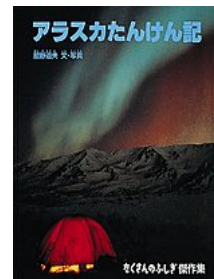


- さわっていらん、ぼくの顔
- 藤井輝明
- 汐文社

※絶版

顔に大きなふくらんだアザのある藤井輝明さんの伝記です。藤井さんはアザのために小学生のころ、「バケモノ！」といじめられました。大人になってからも、外を歩くとじろじろみられる藤井さんは、あることを心がけるようになりました。それは笑顔でお辞ぎをすること。「人間は、知らないものに出会うと戸まどう。だからこそ、病気や障がいについて、きちんと伝えることが大切」と藤井さんは言います。この本はあなたに何を伝えてくれるのでしょうか？

津島市立図書館



- アラスカたんけん記
- 星野道夫／文・写真
- 福音館書店

十九才のころ、ぼくは見知らぬ北の国、アラスカにあこがれていました。あ  
る一枚の写真を見て興味をもったので  
す。それはシシユマレフというアラスカ  
北西部の村の写真でした。どうしたらこ  
の村に行けるのでしょうか。いろいろ考え  
たすえ、ぼくはシシユマレフ村の村長さ  
んに手紙をかくことにしました……。  
アラスカのきびしい自然とその中で  
生きる動物たちのすがたにふれること  
のできる一冊です。

七宝町公民館読書室



- 元気じるしの夏物語
- 竹内もと代／作
- 古味正康／絵
- 文研出版

島で暮らすあずさ、葉子、比呂の仲良し三人は、おじいちゃんやおばあちゃんがうまいという貝をとるため、大人たちに秘密で遊泳区域の外に泳ぎに行く計画を立てます。しかし、弟にばれてしまい、いっしょに行く羽目になりました。下見に行き、泳ぎの特訓をし、過ぎて行く夏休み。そんな中、台風の際に事件が起きます。親友同士で秘密を分け合う、ということに心弾ます一方で、いつもと違う海に不安を感じる少女たちの姿をみずみずしくえがいています。友情がいっぱいあったお話です。ぜひ、読んでみてください。

弥富市立図書館



- ひろしまのピカ
- 丸木俊／文・絵
- 小峰書店

子どもたちへ遺言としてえがいた、原爆の悲さんといかりの物語です。七さいのみいちゃんは、朝食中、一しゅんの間に原爆にあいいます。重いはりの下からはい出て、母さんは傷ついたお父さんを背負い、みいちゃんの手を引いて火の海を逃れます。ネコも魚もツバメも人も流れていきます。傷のいえた父さんが血をはいって亡くなります。みいちゃんは、いつまでも七歳のまま。原爆では、外国の人々も死んでいます。実話をもとに、作者の原爆体験を織り合わせた力作です。

甚目寺町中央  
公民館図書室



- 救出―日本・トルコ友情のドラマ―
- 木暮正夫／文
- 相澤るつ子／絵
- アリス館

明治二十三年紀伊半島沖でそうなんしたトルコの使節船乗船者の救出と、昭和六十年イラン上空の戦争空域化直前のイラン在住日本人の、トルコ航空機による救出という二つの救出事件。この二つの救出事件は、九十五年という時空を超えてつながっていたという真実のドラマ。命をかけて救ってくれた命、その恩はけっして忘れないうということ。人の温かさ、けっしてあきらめない強さ、かけがえのない友情は国境をも越えてゆきます。

美和町図書館



- のにつき―野日記―
- 近藤薫美子
- アリス館

目をそらさず見つめてほしいものがあります。十一月十三日から五月十九日までのある野原での出来事です。野ざらしの私たちのしがいが主人公です。一つの命が終わり、それがまたいくつもの命のかてになり、受け継がれ、自然はくり返されていきます。細かくたん念に書き込まれた絵や小さなふきだしの虫たちのセリフを読んでいくと、その周囲でも様々な「生と死」のドラマが起こっていることがわかります。命と自然の神秘が伝わる一冊です。

蟹江町図書館



- 箸の絵本（つくってあそぼう30）
- 兵左衛門／編
- 土橋とし子／絵
- 農山漁村文化協会

日本ではしを使うようになったのはいつからでしょうか。はしを使う国は日本以外にもあるのでしょうか。はしって毎日使っているととても便利なものだけれど、知らないことがいっぱい。そんな身近な道具であるはしの歴史や文化について、たくさんさんの絵や写真でわかりやすく説明されています。はしやはしぶくろの作り方も紹介されているので、自分の手の大きさにピッタリ合ったマイはし作りにチャレンジしてみよう。

大治町立公民館図書室



- 三つの願い―パレスチナとイスラエルの子どもたち―
- デボラ・エリス／著
- もりうちすみこ／訳
- さ・え・ら書房

「三つの願い？ 芸術家になりたいし、ダンサーにもなりたい。それからうんと長生きしたい。」中東の地で起こっている永久に終わらないかのように感じるパレスチナとイスラエルの子どもたち。暮らすパレスチナとイスラエルの子どもたち。そのふん争、戦争が子どもたちの生活にどんなえいきょうをあたえているのか、子どもたちは何を感じて生きているのか。年齢も境ぐうもさまざま子どもたちの本音に迫ったインタビュー集です。